

予 算 要 求 資 料

令和3年度当初予算 支出科目 款：総務費 項：企画開発費 目：スポーツ振興対策費

事業名 優秀選手（指導者）活用事業費

（この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください）

清流の国推進部 競技スポーツ課 競技スポーツ係

電話番号：058-272-1111（内 2950）

E-mail：c11173@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 45,544 千円（前年度予算額：58,997 千円）

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄 附 金	そ の 他	県 債	一 般 財 源
前年度	58,997	0	0	0	0	0	0	0	58,997
要求額	45,544	0	0	0	0	0	0	0	45,544
決定額									

2 要求内容

（1）要求の趣旨（現状と課題）

- ・県が推進する競技力の向上を実現するには、オリンピックや日本トップレベルで活躍する選手の確保及び指導者養成とともに、当該選手又は指導者とその能力を幅広く地域社会に生かすことができるような環境整備が必要
- ・また、本県では、ぎふ清流国体に向けて成年や高校生の指導者養成を重点的に行ったため、ジュニア世代における指導者が不足している。
- ・このため、県内に所属し、地域に支えられ、オリンピックや日本トップレベルで活躍する選手及び指導者が、優れた技術や経験、人間的な魅力を積極的に地域還元することにより、そこから新たな才能が発掘され、継続的な選手・指導者の育成・強化を進めることができる。
- ・また、ジュニア層への重点的指導を行うことで、スポーツ好きの子どもたちを育成し、スポーツの普及及び競技力の維持向上が期待できる。

(2) 事業内容

- ・ 配置人数 : 9名 (指導者1名、選手8名) ※雇員1名
- ・ 配置場所 : トップアスリート拠点クラブ、(公財) 恵那市体育連盟
- ・ 事業内容 : 強化指定部及び各クラブへの重点的指導
当該競技団体、拠点クラブのジュニアへの重点的指導
小中学校の授業等での出前授業、強化指定チーム(選手)への指導
- ・ 優秀な選手又は指導者が所属するトップアスリート拠点クラブ及び(公財) 恵那市体育連盟に委託

(3) 県負担・補助率の考え方

競技水準の向上は県の基本方針であり、県負担は妥当

(4) 類似事業の有無

無

3 事業費の積算内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
委託料	45,544	トップアスリート拠点クラブ等へ委託
合計		

決定額の考え方

4 参考事項

(1) 各計画での位置づけ

- ・ 岐阜県清流の国スポーツ推進条例 13条
- ・ 清流の国ぎふスポーツ推進計画

(2) 事業主体及びその妥当性

- ・ オリンピックや日本トップレベルで活躍する選手及び指導者が所属するトップアスリート拠点クラブ及び県内市町村スポーツ協会を事業主体とするのは妥当

事業評価調書

新規要求事業
 継続要求事業

1 事業の目標と成果

(事業目標)

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか

競技水準の向上を図るため、日本トップレベル・東京オリンピック出場可能選手及び優秀な指導者を、県内選手を対象とする指導者として活用するとともに、その能力を幅広く地域に生かすことができる出前授業やジュニア教室を行うことで、スポーツ好きの子供たちを育成し、スポーツの普及や競技力向上に努める。

(目標の達成度を示す指標と実績)

指標名	事業開始前	指標の推移		現在値 (前々年度末時点)	目標値	達成率
国体天皇杯順位	—	13位 (H29)	14位 (H30)	19位 (R1)	8位 (R3)	—%
指導実数 (ジュニア指導数)	—	1,893回 (376回)	1,655回 (325回)	1,713回 (313回)	1,900回 (400回)	—%

○指標を設定することができない場合の理由

(前年度の取組)

・事業の活動内容（会議の開催、研修の参加人数等）

令和元年度の指導実績はトップアスリート拠点クラブにおけるジュニア教室、小学校の授業に対する出前教室等を中心に313件となっており、指導の内容についても参加者のニーズに十分答えることができる。

(前年度の成果)

・前年度の取組により得られた事業の成果、今後見込まれる成果

小学校への出前授業では、普段見ることのできないトップアスリートの技術や指導を目の当たりにすることで、子供たちが「あこがれ」を抱き、意欲が高まったという報告が多い。毎年、継続依頼が多く効果が出ている。特別支援学校からの依頼も増えてきた。

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

・ 事業の必要性（社会経済情勢等に沿った事業か、県の関与は妥当か） ○：必要性が高い △：必要性が低い	
(評価) ○	トップアスリートから直接指導を受ける体験は、児童・生徒のスポーツへの興味や関心を高め、学び感じた体験は、その後の努力を継続することになり、体力の向上や競技力の向上に直結している。
・ 事業の有効性（指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか） ○：概ね期待どおり又はそれ以上の効果が得られている △：まだ期待どおりの成果が得られていない	
(評価) ○	より専門的な指導を求めている小学校の授業や高等学校の部活動からは、児童・生徒が引き込まれるように指導を受けているという報告を受けている。継続する小学校や新規で希望する小学校が増えてきている。
・ 事業の効率性（事業の実施方法の効率化は図られているか） ○：効率化は図られている △：向上の余地がある	
(評価) ○	受託先が、依頼団体と直接、連携しており効率的に事業を実施することができている。

(今後の課題)

・ 事業が直面する課題や改善が必要な事項 小学校への出前教室は非常に好評であり、継続小学校も多く認知されてきた。より専門指導が必要な中学、高校部活動の回数が少ない。拠点クラブや競技団体からの広報について改善する必要がある。
--

(次年度の方向性)

・ 継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか。 オリンピックや日本トップレベルで活躍する選手・指導者の人選がこの事業のポイントであるため、学校現場やスポーツ団体のニーズに十分答えることができる人選が最も大切である。選手・指導者については、毎年見直しを実施していく。
--

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント又は事業名及び所管課	—
組み合わせて実施する理由や期待する効果 など	—